ポリカムサイ県で行われた車いすバスケの講習会。地方は屋内体育館などの設備がなく、青空の下で練習している

PLAYERS
国際協力の担い手たち

ラオスの障害者スポーツを支えて21年

メコン地域の内陸国ラオス人民民主共和国。
スポーツを通した障害者支援を続けてきたADDPが、新たなプロジェクトに取り組んでいる。

文●久島玲子（編集部）

NPO法人アジアの障害者活動を支援する会（ADDP）

PLAYER'S PROFILE

1992年、任意団体として設立。障害者のエンパワーメントのために障害者スポーツの有効性に着目し、東南アジアでスポーツ振興を行う。97年からラオスへの支援を開始。ラオスでは障害者スポーツ振興支援、障害者リーダー育成セミナーの開催、障害者就労支援、職業訓練などを行い、日本ではラオスからの研修員受け入れなどを行う。東京とラオスに事務所を構える。

ADDP東京事務所
■東京都板橋区板橋3-57-5美咲ビル1F ■TEL:03-6915-5545 ■http://www.addp.jp

代表の前島富子さん

スポーツで障害者の自立を促す

ＡＤＤＰがラオスで障害者の支援を始めた頃、同国には当事者団体がなく、家族が面倒を見ていることがほとんどで、障害者自身も社会になにを求めればいいのかわからないようだったと、代表の前島富子さんはふり返る。

そこで前島さんたちが考えたのは、スポーツで障害のある人と社会との接点を作り出すことだった。障害のある人がスポーツに取り組み、仕事をし、市民として納税している姿を見てきた前島さんは、スポーツを通して障害のある人が自信をつけ、仲間をつくり、ときには社会を変えるリーダーにもなることを知っていたからだ。

まず取り組んだのは車いすバスケットボール。医療用車いすでプレーするスポーツ好きの学生たちはいたが、雨が降ればできないし、指導者も専門の道具もなかった。そこで、日本の障害者スポーツ団体などに働きかけて競技用の車いすを寄贈し、日本からプロコーチも招請した。「技術だけでなく、バスケを心から楽しみなさい、仲間をつくりなさいということも伝えました」。

その後、ラオス初の車いすバスケットボールチームが生まれ、２００７年にはラオス、日本、タイ、マレーシア４か国対抗の国際車いすバスケットボール大会が行われた。ラオスでは初となる障害者スポーツの国際大会は、多くの人にスポーツで障害者の可能性が広がることを感じさせた。その動きは首都ビエンチャンにとどまらず、11年には北部の古都・ルアンパバンで第1回全国障害者スポーツ大会が開かれた。観客からは「（障害があるのに）スポーツに取り組んでいる人がいるなんて知らなかったし、プレーがすごい」「毎年でも開催してほしい」などの声があがったそうだ。「とてもやさしい国民性なので、障害者がスポーツをする姿を見て、応援したいという気持ちを持ってくれました。地方での大会を展開していけば、きっと社会が変わっていくと感じました」。

障害者と健常者の垣根を超えて

こうした活動を重ねてきたＡＤＤＰが、16年からＪＩＣＡと協力して取り組んでいるのが「ラオス障害者スポーツ普及促進プロジェクト」で、ラオス政府が障害者スポーツを促進・振興するノウハウを支援するもの。「障害者スポーツ指導者の養成、団体を運営する能力の向上などに包括的に取り組んでいます。これは、日本の障害者スポーツが歩んできた道でもあるので、その経験や知見を活かしたい。国レベルでの制度設計ができれば、ラオスの障害者スポーツに大きな進展をもたらすと思っています」と前島さん。

そんななか、オリンピックとパラリンピックの垣根を超えて、練習場所を合同で使ったり、両方の選手を同じコーチが指導したりというラオスならではのユニークな動きが出ている。「インクルーシブ*陸上講習会」が開かれ、健常者と障害者が一緒に指導を受けた。ファシリテーターを務めた世界陸上選手権銅メダリストの為末大さんは「わけ隔てせず、ともに学び、ともにオリンピック・パラリンピックを目指す」と熱く語っていて、水泳でも同様の動きが起こっている。

これは先進的な試みで、アセアンのモデルとなると期待されているそうだ。20年前には障害者の社会参加が課題だったラオスが、スポーツを通してインクルーシブな社会の最前線を走っている。「オリンピックとパラリンピックの組織も合体させる方向で動いています。人口６５０万人で競技人口も少ないからか、インクルーシブの意識の醸成が速くて、私たちも驚いています。こうした下地があるので、障害のある人、高齢者、子どもなど誰でも楽しめるユニバーサルスポーツの普及にも期待がもてます。日本の経験や知見を活かして、スポーツを通して誰もが社会に参加できる、そんな国になっていくとうれしいですね」と前島さんは笑顔で締めくくってくれた。

スポーツを通して誰もが社会に参加できる

＊本来の意味は「包み込むような、包摂的な」。そこから敷衍して、あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないように援護し、社会の構成員として包み、支え合うこと

ラオスの社会を変える人材です!

夢は？ 学校の先生になること

ラーさん

ゴールボールのリーダー

不発弾の事故で失明し家にこもりがちだったが、学びたいという意欲をADDPがつないでビエンチャンの盲学校に入学。そこでゴールボールと出合い、今では女子チームのリーダーとして活躍している。女子チームはアセアンでは強豪チームに成長し、アセアンパラゲームでは銀メダルを獲得している。

夢は？ たくさんの障害者を雇用する会社の社長

カマニーさん

車いすバスケットボール期待の星

内気で人と目も合わせられなかったけれど、バスケに取り組むうちにめきめきと自信をつけた。バスケを続けるために、機械修理の仕事にも励んでいる。日本の障害者支援団体「太陽の家」での研修を経て、障害者スポーツのリーダーとして活躍中。

為末大さんが参加したインクルーシブ陸上講習会。障害者も健常者もともに指導を受けた

上：首都ビエンチャンの障害者専用体育館で練習する女子チーム／中：視覚障害者に向けたゴールボールのワークショップ／右：水泳のワークショップも開催